

オクラ
(アオイ科)

アフリカ原産といわれる。ビタミン類をはじめ鉄、カルシウム等栄養価の高い野菜。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
移植栽培				保温 播種	定植	収穫							
直播栽培													

1) 適地

暑さに強く、盛夏でも旺盛な生育をします。乾燥に強く、吸肥力も強いいため、有機物に富み、日当たり・排水性のよい場所に適します。ただし、ネコブセンチュウには極めて弱いため、発生のおそれのあるところでは、栽培を避けます。

2) 品種

- 5角型サヤ アーリーファイブ、ベターファイブ、グリーンロケット
- 8角サヤ クリムソン・スパイレンス
- 丸サヤ エメラルド、島オクラ
- 赤サヤ ベニー

3) 作り方

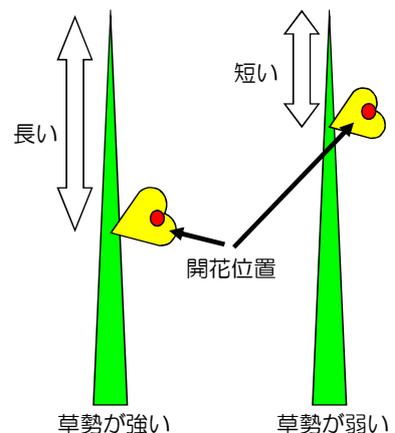
【圃場の準備】 土の保水性・排水性を高め、根張りをよくするために堆肥等の有機物を十分に施し深耕します。播種または定植の1か月前に1㎡当たり堆肥2～3kg、苦土石灰100gを施用して耕耘します。1週間前に高度化成肥料100gを施し、耕耘して幅120cmの畝を立てます。排水のよくない所では、高畝にします。

【播種・定植】 直根性で移植を嫌うので直播が適しますが、ポリポットを用いた移植栽培もできます。寒さに弱く、夜温15℃以下で生育が鈍り、10℃以下では生育が停止するため、露地の直播栽培では5月中旬以降に播種します。種皮が硬く、吸水しにくいいため、一昼夜水または30℃位のぬるま湯に浸漬してから播種します。直播、移植のいずれも株間は15～20cmとし、直播では1か所に3～4粒播種して1cmくらい覆土し、灌水します。移植栽培では、直径9cmくらいのポットに育苗用土を入れて3～4粒播種し、育苗後定植します。

【間引き】 子葉が開き、本葉が1～2枚展開した頃に発芽が遅れた株や混み合ったところを間引き、2～3本立ちにします。間引きの際は根を痛めないよう、ハサミを使って株元から切るようにします。ポットで育苗している場合は、子葉が開いたら2本に間引きます。植え傷みさせないように本葉3～4枚の若苗で定



発芽したオクラ

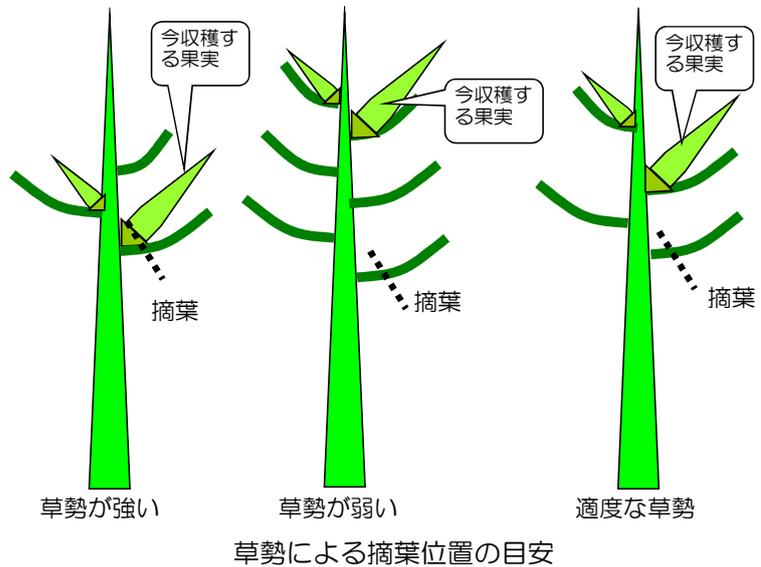


開花位置と草勢判断の目安

植し、2本立ちにします。定植後は直播と同様に管理します。

【追肥・土寄せ・敷きワラ】生育が旺盛になるので、肥切れさせないように追肥します。本葉5~6枚頃に株元付近に1回、開花期以降は草勢や葉色をみて2~3回畝の肩に施し土と混ぜます。量は1回に1m²当たり高度化成肥料を30g程度にします。花が頂部につくときは、肥切れか成り疲れしているなので、若どりして追肥します。順調な生育の時は開花節の上に5~6枚の展開葉があります。地上部が大きくと倒れやすくなるので、草丈が1m程度になったところを目安に支柱と紐を用いて固定します。梅雨明け後、乾燥と地温の上昇を防ぐため敷きワラを行います。

【収穫】播種後50~60日で収穫できます。莢の長さが5~8cmくらいが収穫適期です。莢が大きくなりすぎると硬くなり、食味が悪くなり、あとから着く莢の生長も悪くなります。収穫の際には、草勢に応じて莢の下葉も掻き取るようにします。



4) 病害虫防除

ネコブセンチュウがいる畑で作ると、センチュウの数を増やしてしまうことになるので、栽培は避けます。また、苗の時に過湿になると立枯病が発生することがあるので、排水をよくするように気をつけましょう。

